

通し番号	3 7 2 8
------	---------

分類番号	12-24-17-01
------	-------------

(成果情報名) シオデ種子の発芽技術の開発	
<p>[要約] シオデ種子の発芽・発根促進を図るため、種子の熟度や貯蔵方法等について検討した。種子の発芽は未熟なものより赤く熟したもののほうが良く、また乾燥状態で貯蔵するより湿潤状態で貯蔵した方がよかった。</p> <p>種子は採取した年では適当な温度と水分があっても発根・発芽せず、2年目に発根し、地上部への萌芽は3年目となった。</p>	
農業総合研究所 津久井試験場	連絡先 0426-85-0203

[背景・ねらい]

県内の山林に自生し、味の良い山菜であるが、種子の発芽が困難であり、発芽後の生育も遅いため、栽培はほとんどされていない。そこで種子の発芽特性を明らかにし、発芽方法を検討する。

[成果の内容・特徴]

- 1 種子の発芽・発根を促進するため、熟度の異なる種子を高温、低温処理したが、温度処理の影響はほとんどなく、白～黄色の未熟な種子より赤く熟した種子の方が発芽率は高かった。
- 2 種子の貯蔵方法は湿潤状態がよく、採種後乾燥させるとほとんど発芽しなかった。
- 3 種子は採取した年は適当な温度と水分があっても発芽せず、翌年の7～8月に発根し、9月頃より発芽を始めるが、芽は伸長することなく、2年目に地上部に萌芽した。
- 4 発根前に圃場に播種する場合はやや深めの方が発芽率が高かった。
- 5 地上部の生育は緩慢で、萌芽後1年目は草丈10 cm程度、2年目に30 cm以上となり、株数は1年目1本、2年目で1.5本程度であった。

[成果の活用面・留意点]

種子は発芽までの期間が長いため、採種後はパーミュキライトの中に湿潤状態でポリ袋に貯蔵して、翌年か2年目の春に播種する。また萌芽後の生育も遅いので、敷きわら等により乾燥防止と雑草防除を行う。

[具体的データ]

表 1 種子処理と圃場での生育 (各区 50 粒 H11 年 5 月 2 1 日播種 生育調査 1 0 株)

区	種子処理方法	H12 年 8 月 9 日			H12 年 10 月 30 日	
		発芽率	草丈	葉数	草丈	葉数
採種時期 (種子の色)						
H10. 9. 3 (未熟白)	30 -20 -5	0 %	- cm	- 枚	- cm	- 枚
H10.10. 1 (未熟白)	"	2 5	11.0	11.2	11.8	14.0
" (中熟黄)	"	4 4	11.5	10.4	12.5	15.1
" (完熟赤)	"	8 2	12.1	11.4	12.6	14.5
" (完熟赤)	5 -30 -20	7 8	10.7	12.2	12.0	14.8
" (完熟赤)	室内 (湿潤)	8 4	12.2	11.3	12.8	14.2
" (完熟赤)	室内 (乾燥)	0	-	-	-	-

種子の温度処理はそれぞれの温度で 2 ヶ月行い、その後は室内で貯蔵した

表 2 播種の深さと生育 (H10 年採種し、室内貯蔵の完熟種子使用 1 区 5 0 粒)

区 (覆土)	萌芽率 (H12.8/9)	草丈	葉数 (H12.10/30)
浅播 (0.5cm)	3 2 %	1 2.5 c m	1 3.0 枚
中播 (1.0)	8 2	1 2.8	1 2.5
深播 (3.0)	8 4	1 2.0	1 2.7

未発根の種子を H 11.5/21 播種

表 3 生育

調査 月日	萌芽 1 年目			萌芽 2 年目		
	草丈	株数	葉数	草丈	株数	葉数
5/21	4.2cm	1	2.6	9.8	1	5.6
7/ 7	8.8	1	6.8	28.0	1.5	
9/ 2	12.3	1	10.0	37.0	1.5	
11/10	12.5	1	10.0	32.3	1.5	

[資料名] 平成 10, 11, 12 年度 農業総合研究所津久井試験場成績書 (茶・園芸作物)

[研究課題名] シオデの栽培技術の開発

[研究期間] 平成 1 0 ~ 1 2 年

[研究担当者名] 大森庄次